

「嵐の中で見極めるもの」

～ あなたは何をみていますか～

Ⅱ テモテ 1:11～14 マルコ 6:45～52

■ あなたの役割

人生に意味が分からない、わけのわからないことが起こります。その時のどう反応するかが大事なのです。

『この福音のために、私は宣教師、使徒、また教師として任命されました。そのために、私はこのような苦しみにあっています。しかし、それを恥とは思っていません。なぜなら、私は自分が信じてきた方をよく知っており、また、その方は私がお任せしたものを、かの日まで守ることがおできになると確信しているからです。あなたは、キリスト・イエスにある信仰と愛のうちに、私から聞いた健全なことばを手本にしなさい。自分に委ねられた良いものを、私たちのうちに宿る聖霊によって守りなさい。』(2テモテ 1:11-14)

パウロは良い家柄で、ローマ人としての市民権も持っていました。それだけ特別な存在だったのに、自分が想像して描いたのと違う状況に置かれていても恥とは思いませんでした。有名な心理学者たちが言うに、名誉を持つこと、快樂をつかめること、役割がわかって、それが生活にもきちんと基盤が置かれていることが人間の精神が求める究極だと教えていました。ただ、パウロが置かれているのは牢屋。

この牢屋の中でもパウロは自分の信じている方を良く知っています。パウロは任命されていることが分かっている、そして、それを成し遂げてくださる方がいるということをよく知っていました。

私たちはどうでしょうか。あなたの役割を分かっていますか。そして、役割を保つために真剣になってふさわしい行動を取っているのでしょうか。自分に与えられた良いものを保とうとする時に、神様は必要を満たされます。

■ 志をわかっているものとそうでないもの。

『それからすぐに、イエスは弟子たちを無理やり舟に乗り込ませ、向こう岸のベツサイダに先に行かせて、その間に、ご自分は群衆を解散させておられた。そして彼らに別れを告げると、祈るために山に向かわれた。夕方になったとき、舟は湖の真ん中にあり、イエスだけが陸地におられた。イエスは、弟子たちが向かい風のために漕ぎあぐねているのを見て、夜明けが近づいたころ、湖の上を歩いて彼らのところへ行かれた。そばを通り過ぎるおつもりであった。』(マルコ 6:45-48)

神様は私たちに与えられた賜物を守ろうとしたときそれを脅かす妨害をとってくださる方です。志が与えられたとき、それを最善を尽くしてやろうとしたときに神様が働いて奇跡をもたらします。

しかし、弟子たちは、群衆は自分たちに関係ない人で彼らを憐れんで癒し交わることを思わずに、自分たちの手には負えないから人々を帰らしてほしいと話しました。イエス様はその弟子たちを強いて舟に乗り込ませ、自分は群衆を解散させておられました。心のない弟子たちは自分が願うようにいったん進みたい方向に向かいました。ただ、向かい風に前に進むことはできませんでした。その間、そこでイエス様は山のほうに向かわれた。夕方から夜中の3時まで祈り、弟子たちの横を通り過ぎようとしていました。

■ 心が堅く閉じていると悟ることができない

『しかし、イエスが湖の上を歩いておられるのを見た弟子たちは、幽霊だと思い、叫び声をあげた。みなイエスを見ておびえてしまったのである。そこで、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。そして、彼らのいる舟に乗り込まれると、風はやんだ。弟子たちは心の中で非常に驚いた。彼らはパンのことを理解せず、その心が頑なになっていたからである。』(マルコ 6:49-52)

心が閉じていると、イエス様が何を願っておられるかわからなくなります。イエス様は心を開いていて群衆たちの声を聴かれていた。しかし、弟子たちは心を開いていなかった、彼らの声に耳を傾けることができませんでした。そして、自己流でやろうとするとうまくいかないのです。いくら漕ぎあぐねてもたどり着くことができません。しかし、このように頑なな心を持っていた弟子たちも変えられました。船の横を通り過ぎようとするイエス様を声を出して求めた時、イエス様は一緒にいてくださり嵐が静まるようにしてくださいます。

■ イエス様の目線で変わることができる。

『実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。』(エペソ 2:10)

私たちが変わることができます。心が開くまで、神様は待っておられ、山にこもって祈り、通り過ぎて行かれます。だから、イエス様をよく見ておかなければならないのです。ヨセフも小さい時に分らずに失敗をしてしまいました。そして、何回も何回も壁にぶつかります。こんな時、私たちはこんな目に自分はどうだと言いたくなります。なのに、あなたがパンを渡せとイエス様は言われます。しかし、わからないから私たちはおろかにしてしまいます。これを私が理解するまで続きます。渡ろうと思ったら1時間でわたれるガリラヤ湖を弟子たちは夕方から3時まで漕いでいました。私たちが分からないと長くかかるのです。神様は私たちが分かるように、一番良い状態になるように、収穫に間に合うように、私たちの畑が主をまくのにふさわしくなるように鍛えてくださっています。自分のかたくなな心ではなく、イエス様が私にどうなしてほしいかと聞き求めることが大

■ 最善の言葉と行い

受け継がれた志→「神様は見捨てない!!あなたは選ぶことができる、最善の言葉と行い」

タイタニックが沈没するとき、バイオリニストは最後の最後に演奏をしました。命がけの、イエス様への、十字架の賛美「主よみもとに近づかん」。この賛美はベンジャミンフラワーという政治活動家の熱心に自らの信念を受けついで娘サラフラワーによって作曲された賛美です。父ベンジャミンはその信念を守るため投獄され苦しみを通り、娘サラは父の志を演劇で伝えるんだと願っていましたが体が弱く演技を辞めざるを得ませんでした。しかし、その志を諦めなかったサラは作曲家になりこの賛美を作ったのです。そして、その賛美はタイタニックが沈没する直前に命を懸けて神様を賛美したバイオリニストを通して奏でられました。

「主よみもとに近づかん」

主よ御許に近づかん 登る道は十字架に

ありともなど悲しむべき

主よ御許に近づかん 現し世をば離れて

天翔ける日来たらば

いよいよまず御許に行き 主の笑顔を仰ぎ見ん

私たちの人生はこのようなものです。自分で考えた道があるけど、神様が使おうとする道は違うかもしれないです。しかし、心に与えられている志は、神の召しと召命は変わることがありません。それが私たちが願う形ではないかもしれませんが。だからこそ、私たちは神様の志から道をそらさないための方法を知っておかなければなりません。イエス様の目を持つこと。何のために今ここにいるのか。何を願っているのか。弟子たちは何を求めていたのでしょうか。彼らは家も家族も捨てて行っただけで、彼らが願っていたのはちょっと違ってわからなかったのです。イエス様は弟子たちに何を望んでいたのでしょうか。私たちに何を望んでいるのでしょうか。

■ 最後に

湖の上の弟子たちのように私たちは本当に捨てないといけなことを持っているかもしれません。彼らにパンをあげろと言われても、なんで私がつってなってしまうかもしれません。

計画がうまく進まなくて、どれだけ漕いでも人生がうまくいかないとき、イエス様は黙ってその隣を過ぎようとしていました。しかし、私たちが願うと「恐れるな」といいその船と一緒に乗り嵐を沈めてくださいます。まだかたくなにいたいでしょうか。まだわからないと言って生きるのでしょうか。それとも、主のみもとに近づかせてくださいと、主を仰ぎ見させてくださいと、あなたが何をみているのかを教えてくださいと、私がなぜ作られているのかを教えてくださいと聞くものになりますか。荒れ狂う水の中でイエス様をお迎えできれば私たちは変わります。通り過ぎようとしたのに、私たちが願うイエス様の目線を求めると、心を傾けてみてを差し伸べて奇跡をもたらしてくださる方がイエス様です。

(要約者:李 雋英)

(2022年7月3日)